

平成29年 教育委員会第2回臨時会 会議録

日 時 平成29年 8 月 1 日（火）

午後 3 時00分～午後 5 時05分

場 所 教育委員会室

議事日程

第 1 協議

【指導課】

（１）平成30年度使用 小学校教科用図書採択（特別の教科道徳）

第 2 その他

出席委員（4名）

教育委員長	中川 典子
教育委員長職務代理者	金丸 精孝
教育委員	古川 紀子
教育長	島崎 友四郎

出席職員（5名）

子ども部長	大矢 栄一
教育担当部長	小川 賢太郎
子ども総務課長事務取扱 子ども部参事	安田 昌一
指導課長	杉浦 伸一
指導課 統括指導主事	佐藤 達哉

欠席委員（0名）

欠席職員（0名）

書記（2名）

子ども総務係長	村松 紀彦
子ども総務係員	松村 秀一

中川委員長

ただいまから平成29年教育委員会第2回臨時会を開会します。

本日、欠席はありません。

今回の署名委員は、金丸委員にお願いいたします。

本日の議事日程はお配りしてあるとおりですが、第1、協議、平成30年度使用小学校教科用図書採択（特別の教科道徳）は、千代田区立小中学校、中等教育学校前期課程教科用図書採択事務取扱要綱第8条に規定する審議の公

正を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書きの規定に基づき、非公開としたいので、その可否を求めます。
賛成の方は挙手願います。

(賛成者挙手)

中川委員長 全員賛成につき、ここからは非公開といたします。

◎日程第1 協議

指導課

(1) 平成30年度使用 小学校教科用図書採択(特別の教科道徳)

中川委員長 日程第1、協議に入ります。
平成30年度使用 小学校教科用図書採択(特別の教科道徳)について、指導課長より説明をお願いいたします。

指導課長 この平成30年度使用 小学校教科用図書の採択については、専門的な調査研究、適正かつ公正な採択の確保、開かれた採択の推進を基本姿勢として調査研究に取り組み、7月25日の第12回定例会において小学校教科用図書選定委員長より答申したところです。

本日は、その答申の内容について、委員の皆様にご協議をお願いいたします。詳細は、統括指導主事より説明します。

なお、本件は、要綱第8条に規定する審議の公正を確保するため非公開との決定をいただいておりますが、採択後に会議録を公開する手続きをとりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

中川委員長 はい。統括指導主事。

統括指導主事 では、続きまして、統括指導主事です。先日の教育委員会において答申させていただきました答申書及び資料等について、教育委員の皆様にはご持参いただいているかと存じます。各委員会の構成は、答申書に添付しております資料1及び資料2のとおりでございます。

調査研究の経過及び答申の概要は、資料3をごらんください。6月23日の第1回教科用図書選定委員会において、選定委員長より各学校長に教科用図書調査委員の推薦を依頼し、あわせて教科用図書研究会の開催を依頼いたしました。その結果が、様式1から3まででまとめられております。

本日は、選定委員会より審議の結果をまとめて提出された様式3の資料に沿って協議をお願いしたいと存じます。

協議に先立ち、何点か確認をさせていただきます。

まず、各出版社から出されている教科用図書についてですが、これらは全て国の検定を通っており、つまりどれも基準を満たしております。また、平成27年3月27日に学校教育法施行規則が改正され、従前の道徳を特別の教科道徳とし、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部、中学部学習指導要領の一部改正の告示がなされました。改正小学校学習指導要領では、平成27年4月1日から、移行措置として、その一部または全

部を実施することが可能となっており、平成30年4月1日から全面実施することになっております。今回はそれに向けた特別の教科道德の教科書採択になります。

また、答申結果は、実際の学校現場において授業を行っている教員の協議の結果であるということを申し添えます。

それでは、特別の教科道德について、教科書選定委員会での調査に基づく推薦理由等につきましてご説明いたします。

後ろに教科書をご用意させていただいておりますので、もしよろしければ自由に手にとっていただきながら、お聞きいただければと思います。

それでは、ご説明をさせていただきます。

発行社は8社あります。いずれの発行社も大変よい仕上がりとなっておりますが、特に調査委員会より推薦の強かった3社についてご報告いたします。

まず、光文書院です。

1の内容の選択としては、長年親しんでいる資料を多く採用しており、教員が資料の中心発問を捉えやすいという点です。2の構成・分量としては、全体的に適量です。全学年、巻末に「学びの足あと」がついております。継続的に記録させることにより、自己の気づきの振り返りを蓄積することができるとはよいと思います。別途、ワークシートなどを作成する場合は、内容が重なってしまうこともあるため、二度手間にならないよう、配慮する必要があります。また、どの学年も、必ず冒頭で目当てを、終わりに言語活動や体験活動を行うことで統一しており、経験の浅い教員でも授業の流れがつかみやすい内容となっております。3の表記・表現としては、挿絵が鮮やかで視覚に入り込みやすく、児童の思考の補助となります。教材文の下に考えるための吹き出しが書いてあり、児童の思考を助ける手だてにもなります。4の使用上の便宜としては、A4判に近いサイズで、8社のうち一番大きな部類に入ります。本文と挿絵が大きくゆったりとした配置で見やすい反面、ワークシートやノートも広げると、若干机上が狭まることも考えられます。5の地域性への配慮としては、日本で初めて取り組んだ千代田区ポイ捨て禁止条例をもとにした資料、「マナーからルールへ。そしてマナーへ」が掲載されております。千代田区の住民の願いから、問題を解決していったことが決まりの意義として取り上げられております。6年生の教科書です。千代田区の取り組みを扱った資料で、決まりの意義を児童に考えさせることはとても価値のあることです。6のその他については、特にございません。

続きまして、東京書籍です。

1の内容の選択としては、こちらも、長年親しんでいる資料を多く採用しており、教員が資料の中心発問を捉えやすい点が挙げられます。また、全学年に情報モラルを扱った資料があり、いじめ防止に向けた編集者の強い配慮が見られます。2の構成・分量としては、挿絵、文字の大きさ、分量が適量で、児童が読みやすいです。また、1・2年生は、本文で終わっていて、言

語活動や体験活動を扱う内容は、掲載されておられません。このことは、教科書に余計な記述がないことで、児童の思考が縛られないという長所がある一方、経験の浅い教員にとっては、授業の流れがつかみにくいという懸念があります。また、このことは、教科書調査研究員からも、副読本のときと余り変わらない、教科書という感じがしないという報告からもわかります。3の表記・表現としては、特に挿絵の色合いとタッチがソフトで目に優しい感じがします。また、絵本等で活躍している作者の挿絵も多く、挿絵をもとにイメージを膨らませながら児童が学習に取り組むことができます。使用上の便宜としては、B5サイズより横に大きく、B5のものより文字や挿絵がゆったりと配置してあり、見やすく感じられます。A4のものより一回り小さく、机の上で同時にノートやワークシート等を広げても大丈夫なつくりになっております。5の地域性への配慮としましては、多摩川の外来種を問題に取り上げたタマゾン川、戦争時の命を守るための努力を取り上げた東京大空襲があり、東京の地域の特性を生かした資料をもとに、児童が学ぶ意義はあります。6のその他は特にございません。

最後に光村図書です。

1の内容の選択としましては、決まり切った答えがなく、児童に考えさせることができる資料が多く採用されております。また、いじめ防止については、全学年でコラムとして、資料ではなく直接扱っており、いじめはいいことであることを児童に直接働きかけています。2の構成・分量としては、目次に学習時期が明記してあり、順番に取り組むようになっていて、担任が進行管理を明確にできるよさがある一方で、学級や学校の実態に合わせて資料を選ぶことができにくくなってしまう短所がございます。また、冒頭で、本時でどんな学習を行うのか、終わりに何を考えていくのかが全て資料に明記してあり、経験の浅い教員でも、授業の流れや的確な発問ができやすくなっております。また、全体として読みやすい内容、適度な分量で、経験の浅い教員も大変扱いやすい分量となっております。3の表記・表現としては、表記が国語の教科書と類似しており、経験の浅い教員等が心情を追いかけてしまうなど、指導の際に勘違いをしてしまうという懸念があります。4の使用上の便宜としては、他の教科と同じB5判で、児童の持ち帰りにかさばらず、机の上でもノートと同時に開いても邪魔にはなりません。5の地域性への配慮としましては、千代田区や東京都に関する資料は特にありませんでした。6番のその他も特にありません。

以上で、推薦3社の説明を終えさせていただきます。

中川委員長

はい。ただいまの説明を踏まえた上での協議をお願いしたいと思います。

なお、本日の協議をもとに、採択の候補とする教科書を決定していきますが、やむを得ない場合には、挙手で決定いたします。同数の場合には、委員長の権限で決定させていただきます。

それでは、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

金丸委員

よろしいでしょうか。今の3つの出版社の本を見ますと、それこそA4

	判、B 5 判、そして B 5 判プラスアルファみたいな形で大きさがかなり違いますね。これによって、例えば机のところに置く、先ほどの話だと、B 5 判だと邪魔にならないというような書き方がしてありますけれども、例えば A 4 判であるとする邪魔になるのでしょうか。それから、かばんに入れるときに、この大きさはどれもが子どもにとって扱いやすいのかどうか。その辺はどうなのでしょう。
統括指導主事	大きさにつきましては、副読本のときからこのような大きさを採用している会社はございました。また、机上、机の大きさについては、どの学年も基本的には変わらないのですが、教科によってそれぞれ教科書の大きさも今まで違うこともありましたので、使用していく中で、そちらは慣れてくることでクリアされる場所はあるのではないかと思います。
	もう 1 点、もう一度お願いいたします。
金 丸 委 員	もう一つは、持ち運び等について、いずれもあまり問題にならないのかどうかということです。
統括指導主事	教科化されるに伴い、自宅に持ち帰ることが基本になってくるかと思っています。ただ、現在子どもたちのランドセル等の大きさも、A 4 判に対応できるものが非常に多くなっており、持ち帰る際には、それについても大きな問題とはならないと、これぐらいのサイズであれば、十分ランドセルに収納できるのではないかと考えております。
金 丸 委 員	私みたいに、どっちかという、ちょっと細かい人間にとってみると、全部が同じ大きさで、かばんにぽんと入れたら非常に扱いやすいように思うのですが、特にそんなことを子どもたちは気にしていないと理解していいわけですかね。
統括指導主事	過去には例えば国語の教科書は B 5、さらには小さいサイズで、図工とか音楽、そういった教科については大きなサイズと、今までも種類が教科によって大きさが違うものがございましたので、その点は大丈夫かと思われます。
中川委員長	ほかに何か質問は。
金 丸 委 員	では、もう一つ。結構それぞれの出版社によって字の大きさが異なっていますね。私は年配だからそう思うのかもしれませんが、明確な見やすい文字のものと、細くて小さい、読みにくいものがあります。小学生にとってみると、その差というものは余り大きくないのでしょうか。
統括指導主事	選定委員会の際にも、その点は若干話題となりました。今回推薦のあった、例えば光文書院ですと、字の大きさ、また太さ、字形については、非常に見やすいという意見がある一方で、光村図書については、やはり字が細く、しかも教科書も一回り小さいため、字も小さくなっているのではないかと、少しその点は気になるといった意見もございました。
中川委員長	東京書籍のほうで、観点の 2 ですけれども、「終末で言語活動や体験活動を扱う内容が掲載されていない」というふうに書いてありますが、これは、ほかのと比べて、どここのことを言っているのでしょうか。学習の振り返りの

	ことを言っているのでしょうか。
統括指導主事	恐らく多くの教材で、問題提起をするような形で終えている、書き終えている内容が多いのではないかとこの部分で、調査委員会、選定委員会のほうからまとめられたと考えております。
中川委員長	これで言いますと、一番後ろに、光文書院は、矢印で自分の判断とか、それから感じたことを書くようになっているのですが。こちらの光村図書では、一番後ろに、ここにあなたの12歳の写真を張ろうというあとに、学びの記録として、何月何日に何々というふうに書くようになっているのですが、そういうことが東京書籍にはないという意味なのではないでしょうか。
統括指導主事	振り返りの点についても、やはり調査委員会等でも話題となったことがございます。光村図書、また光文書院について、巻末のほうに短く短時間で振り返ることができる、この記録を蓄積できるというよさがあるといった意見が多く出されました。ただ、これで学習のまとめとすることのないように、さらに工夫もしていく必要があるといったところも、見た先生方は感じ取っておりました。
中川委員長	ということは、特にそれがなくても、大きな判断材料にすることはないのであることよろしいのでしょうか。ここにはポイントということを書いてはありますけれども。
統括指導主事	判断材料、大きなところでは私のほうからは何とも言えないところですが、ただ、これがあって、これが継続して一目で振り返りがわかると、今までの学習の足跡が見られるというよさに着目している先生方は多くいらっしゃいました。
中川委員長	ほかはいかがでしょうか。
金丸委員	私も、今のところはちょっとよく見えないのですが、例えば東京書籍の4年生のほうで見ますと、155ページに学習の振り返りという欄があって、その後、これも1ページではなくて、何ページにもわたって振り返りの欄がこう書いてあって、自分の感じたことを書くようになっていますね。これと、例えば光文書院の最後についている学びの足あと、光文のほうは、十分に振り返られ、蓄積ができるというようなことが書いてあることとの絡みが、こちらだと何でできないのかがよくわからないものですから、それは、先生方がどんなような気持ちでそういうふうにお考えになられたのか、教えていただけると助かります。
統括指導主事	光文書院と東京書籍の比較ということよろしいですか。
金丸委員	どれでも結構ですけれども、要するに、先ほどの話だと、東京書籍にそれがないからというようなことが書いてあったので、だけど、あるのではないかと私は思ったものですから。ここにあるものは、それに該当しないということは、どういう理由で該当しないと考えられたのか、それを教えていただきたいという意図です。
統括指導主事	説明が不十分で申しわけありません。該当しないというところではなく、このワークシートのつくりですとかその書きやすさ、また構成、そういった

金丸委員

ところで、恐らく光文書院のところの学びの足あとについては評価が得られたのかなというふうに捉えております。

道徳の教科をどう捉えるかという問題にも影響すると思うのですが、1つの正しい答えが出やすいものであれば、例えば光文の矢印で、一言というふうになるかもしれませんが、道徳というのはもう少し幅広くいろいろなことを考えると、ただ1行にぽんとまとめて書きなさいということは、逆に道徳のあり方に合致していないのかなという見方もあるだろうと思いますね。その点について、学校の先生はどのようにご判断してそのような評価をされたのかを、できれば教えていただきたいのですが。

統括指導主事

いずれの教科書にも、それぞれ工夫をされた一言でのまとめですとか、そういった記入する欄があるものが多くございます。ただ、ここに出されているもの、掲載されているこの記入欄を全て毎回使わなければならないというものでもなく、実は教員の中ではこれプラス、多くの指導者は、ワークシートといった形や、また道徳ノートといった形、別の形で1時間の振り返りをする教員がたくさんおります。選定委員会、また調査委員会の中でも、今ご指摘のあった1行で、また短い文章で書きあらわすことについて、やはり自分だったら道徳ノートを使用する、ワークシートを毎回張り合わせていくといった意見もありましたので、これをそのまま全て活用するというのではなく、活用できるところをその都度利用していくという形で大丈夫かと思えます。

中川委員長

そうしますと、やっぱり金丸委員がおっしゃったように、何かの量ではなかったり、1行で書いたりとかということではできないということから言うと、矢印で授業を受けた後の気持ちを書きましょうということは、これは何か必要ないかなと私は思いました。

統括指導主事

調査委員会等の中で出た意見では、やはり先ほどワークシート等と申し上げましたが、逆に、記述をすることが苦手な児童、なかなか文章の書けない、書くことに抵抗のある児童が、この短いスペースで逆に一言書けたり、また、それも大変だというお子さんが、矢印で自分の今の気持ちをあらわしたりするといった、そういった使い方もできると。そういった意見も光文書院の教科書を調査していく中ではありました。

また、それに限らずですが、さまざま、矢印だけではなく、フェイススケールといった顔の表情で、そのときの心情ですとかをあらわしたりする手法もさまざまな教科でとられておりますので、その子どもたち、児童一人一人の実態に応じたまとめ方が適切にできるというところでは、こういった資料も活用できると思っております。

金丸委員

あと、もう一つ、全体に、資料の中心発問が、先生方にとって捉えやすいというような評価が幾つかありますね。この発問のポイントが捉えやすいということ自身も、本当にそれでいいのかについて、ちょっと私としてはお聞きしたいと思うのですが。道徳というものは、いろいろな考え方を前提にして議論をさせるというところが中心的な課題だとすると、発問が捉えやすく

統括指導主事

て一方的な1つの発問しか出ていないとすると、結論として、子どもたちを一方に誘導するというのが中心にならざるを得ないのではないかという疑問も出てくるのですが、その点はいかがでしょうか。

発問、今回の改定の大きなポイントとしては、今ご指摘がありましたように、深く考える道徳、議論するに足り得る教材を使った、議論する内容の道徳の授業というものが挙げられます。ただ、それに向けて、教科書のほうも編さんされておりますが、中身を指導する側が上手に捉え切れない、また、何を子どもたちに考えさせればいいのかというところの指導、指示ができないと、その1時間が非常にもったいない時間となってしまいますので、特に先ほど来から申し上げておりますが、現在経験の浅い教員がたくさんふえている中で、何かしら授業の指導のヒント、また授業を進めていく上での助けとなるような工夫がされている教科書は非常に使いやすいのではないかと思います。

中川委員長
教 育 長

どうぞ。教育長。

そのところは、教科書を選ぶとき非常に難しい問題だと思います。教科書はいろいろありますけれども、かなり細かく教えるの視点が例示されている教科書もあれば、ざっくりとした議論の方向性しか出されていない教科書もあったというふうに認識しています。

先生が教える場合に、子どもにわたる教科書以外に、道徳についても先生の手持ちの指導書として、先生に学習の視点を例示するような指導書というものが配られるのでしょうか。私が言いたいのは、必ずしも教科書そのものに細かい視点まで盛り込む必要はないのではということです。若い先生もいることを考えれば、先生の発問のヒントになるような事柄が、先生の手持ちの教材の中に幾つか例示されていれば、教科書そのものの中では余り細かい視点まで踏み込む必要はないのではないかと思います。その辺はどうなのでしょう。

中川委員長
統括指導主事

統括指導主事。

今ご意見をいただいたところについて、教員の手持ち、いわゆる教師の指導書、教師用指導書等は、どの教科においても多くの出版社で作成しております。それらをもとに、教材研究等をして、いわゆる教師の手持ち資料として多くの授業は進められていると思います。

今回の道徳の教科書につきましても、やはり全ての会社で教科用指導書を作成しておりますし、あとは、デジタル教科書に対応した内容ですか、あとは、ウェブで資料をうまく取り込めて、さらにわかりやすい内容とか、伝えやすい内容、掲示の工夫ができるような、そういったツールもそれぞれ出版社によって準備されているというふうに捉えております。

中川委員長
古 川 委 員

古川委員。

私も、まず、道徳の授業は、その先生がそのクラスの子どもたちと一緒に自由に進めていってほしいと思っているので、方向性を限定するようなものとか、あと、別冊のノートで分量がとて多いものとか、話の終わりについて

ている設問がたくさんあるものとかはよくないのではないかなと思っています。

それで、指導書もきつとあるだろうと思いましたので、例えば目次からしてテーマごとにいろいろなイラストが描かれているとか、いろいろな情報がたくさん載っているものもあるのですが、子どもたちにとってはそんな必要はないのではないかなというふうに思いました。お話を読み進めていくときに、目を引きつけられるとか、構成の工夫は必要かと思いますが、子どもたちにまで細かい情報は要らないのではないかなと思っていました。

まず、ノートですけれども、ノート自体、構成がうまくできているなと感じたものもあったのですが、そういった理由で私は要らないかなと思いました。

ただ、今まで選定委員会と調査委員会等の結果を伺って、若手の先生の立場に立ってみると、多少必要なのかなという気にもなってきました、ベテランの先生はもっと臨機応変にできていかれるのかなというふうにもちょっと思ったりしました。

あと、ノートについての追加ですけれども、調査委員会等の先生のご意見に、例えばワークシートをつくらなくて済むから便利だとか、分量が多いからちょっと使いにくい、少ないから使いやすいなど、いろいろな意見がありました。あと、ノートに限らず学びの足あとについてのまとめ方とか、最初は余り必要ないものかなとは思っていたのですが、今回はちょっと重視して見なかったですけれども、次の選定のときあたりは、きっと先生方も教科化に向けてもっと道德の授業を見詰めていかれると思いますので、やり方等、違ったタイプのノートなども出てきて、先生のやりやすいような教材にもっとなっていくといいなと思いました。

それから、いろいろな指示とか方向性が限定されるとか、指示が多いとかいう点から考えていくと、光文書院が、全体をいろいろ見えて、物語の最初に問いが載っていて、あと、今度、本文の下に考え方のヒント等が載っていて、それで、私も最初見たときに、これはよいことだという先生と不都合だという先生とすごく分かれるかなという印象を強く持ちました。ただ、文の下にヒント等を読んでいて、嫌な感じはしなかったもので、余り情報が多くない教科書がいいなと思いながらも、ちょっとおもしろいなと感じたところです。調査委員会等の先生方のご意見も、両方の意見が確かにあったと思っています。

情報に関しての点では、そんな印象です。

中川委員長

そういう教え方の問題とかはもちろんありますけど、やっぱり一番大事なのは、教科化に当たって、何を芯にしていくか。その芯が、この教科書に盛り込まれているかどうかということを先に考えないといけない、きちんと吟味しなければいけないかなと思うのですが。

金丸委員

よろしいでしょうか。すみません、今の委員長のおっしゃっていることと一致するかどうか分からないですけど。さっきのことにつながるのですが、

先生方にとって観点が捉えやすいという視点というのは、あくまでも先生側から見た教科書の見方であって、やっぱり子どもたちにとって何がいいのかというふうに考えたとき、本当にそれでいいのだろうかという感じはしますね。

特に幅広い考え方が授業の中で出たほうが、特定の価値観に集約するよりもずっといいだろうと。そういう意味では、余り誘導があるものはちょっと問題があるのかなという感じがします。

例えば、私が誤解しているのかもしれませんが、『泣いた赤鬼』という話は、もともと青鬼が、いじめっ子になって友達をつくれるようにしてあげようといったところで、実は赤鬼はとめなきやいけなかったのだろうと僕は思っています。やっぱりそこから議論が始まったらいいだろうと、思っているのですけれども。あの文章を読むと、もうそこは当然の前提で、結論だけから物事を判断したらいいのだと。

そういう意味で、何かもう少し子どもたちが広い観点から議論ができるようなものだといいたいだろうというふうに私自身は思っています。

中川委員長

そうですね。やっぱりこの道徳が教科化されるということのきっかけになったのは大津のいじめ事件で、子どもたちを何とかしなければいけないということだったと思います。ただ、やっぱりその前提としたら、子どもたち一人一人が自己をきちんと確立して、人はみんないろいろな考え方があって、それがあるのだということをわかって、そうしない限りはやっぱり他人が他人であることを認められないのではないかということかと。内容的に、そういうことをきちんと捉えているかどうかということを、この教科書の中で書いてあるかどうかを、私たちがきちんと判断しなければいけないのだろうというふうに思っています。

古川委員

すみません。今ちょっと、『泣いた赤鬼』の話が出てきたので。例えば、今、泣いた赤鬼が、3年生か4年生あたりですか。その学年で読むのと、あと、もっと高学年で『泣いた赤鬼』を読むときと、印象が、また感想も違って来るかなと思っています。

私は、『泣いた赤鬼』で感動したタイプだったのですが、その学年でいろいろな意見があって、もちろんいいと思いますけれども、そこまでして青鬼が思ってくれたとか、今までの王道的な考え方も、その学年相応の1つのテーマであったのではないかなと思いました。

ただ、中学年で読んだとしても、金丸委員が今おっしゃったところの視点で思う子は中にもいると思うし、そういう子の意見をちゃんと先生が吸い上げてくださるような授業展開であってほしいなと思っています。

いろいろな物語を読んでみて、ちょっと、私が今読むと、何かこれは理不尽だなと思う話もあったのですが、その学年、学年で、ざっくりとしたつかみで良い、というか、やっぱり学年ごとに物語の内容って考えられていて、大人から見て、そんなに細かくつかなくてもというか、学年なりの大ざっぱなざっくりとした思いを持って、それぞれの学年で味わっていければいい

中川委員長
金丸委員

のではないかなどと思いながら、教科書の内容のお話について、特にこれは絶対まずいとか、余り私は感じませんでした。

どうぞ。

誤解を与えたらすいません。私の言っているのはそうではなくて、実はクラスが、学年が一定の価値観のところに集約するのは非常に道德としては怖いと。そうではない意見が出やすく、かつそれはそれでそういう考え方もあるねという形でまとめたほうが、道德の意味があるだろうと思っていて、そういう意味で子どもたちが持っている、ほかの人と違う意見が出やすいような状態の授業ができると一番いいだろうな、そういう意味です。

中川委員長
教育長

教育長。

私も、8社の教科書を見比べる中で感じたことは、全体に、今までの道德の時間の中で、副教材みたいな形で使われた物語性のある教材を多用している教科書がある一方で、編集委員会が自分で場面を設定して、正解がないような状況の中で子どもたちに自分の意見を自由に議論させるような教材を割と多く扱っているような教科書もあります。僕はどちらかというと、ストーリー性のある教材よりも、シチュエーションを提示して、その中で自由に子どもたちの中で議論してもらうような仕掛けのある教材がいいように思っています。その辺を1つの視点で見させていただきました。

中川委員長

そうですね。それは8社を見ると随分違うと思います。例えばおじぎの仕方を取り上げていても、その取り上げ方は、これは正しいでしょうか、正しくないでしょうかみたいになっているもののと、そうではなくて、場合によって違うんだよということを書いてあるものがありますね。やっぱりそういう点で何かを誘導するような教科書は避けたいなということは思いました。

指導課長

委員長、よろしいですか。今、中川委員長がおっしゃったような形で、道德というものは、ある一定方向に誘導するような指導は適切ではないと言われております。同じ題材でも、取り上げる出版社によって切り口が全然違うということもわかりますし、1時間の中で、ある程度子どもたちが心を耕しながら、しっかり意見を持つ、あるいは最初はこう思ったけれども、みんなの話を聞いてたらこういう気持ちになったなど、心が動かされて自分なりによりよい意見を持つということが大事であって、それがみんな同じような状態になってはいけないということは言われております。

そして、先ほども出版社によっては、問いが、このことはよくないですかとか、このことはいいですかということ、いいかよくないかの、この2つに分かれてしまう。そういう質問をされるとどうしても、いいと思います、なぜならこうです、悪いと思います、という白黒両極端ではなくて、ひょっとしたらこういうことをすれば、このことは悪いことだけでもいいことかもしれないという形で、発問の仕方が、このことについてどう思いますかという形で、その質問の仕方だけでも全然広がり方、また子どもたちがしっかりと考えて自分の言葉で自分の意見を言うというような流れになると思いますので。そうした視点から、例えば教科書の同じ題材であっても子どもたちの意

見が広がるような、多様な意見が出る、逆に拡散してしまうと、なかなか最後はまとまりません。物語には、どこかに一番考えさせなければいけないポイントがありますので、そのポイントは押さえつつ、その中で多様な子どもたちの意見が出るような流れになっている教科書が適切な教科書ではないかと考えます。

中川委員長 今、3つ挙げられているのですが、この3つにしても、やっぱり取り上げている内容が少しずつ違ってきますから、その辺について、どう思うかということをやっと考えてみたいと思いますけれども。

教育長。

教 育 長 3つというお話があったわけですが、私は一応一通り、8社のものに目を通しました。それぞれの教科書に対する私なりの評価があるのですが、簡単に意見を述べてもいいですか。

中川委員長 それは言っていた方がいいです。先にそれをやった方がいいかと思います。私も幾つかありますけど。

教 育 長 私なりに言いますと、まず、廣済堂あかつきの教科書は、ノートが別冊になっている、つまり2冊つづりになっています。幾つかそういう教科書がありますけれども、私は、ノートが別冊になっていると、子どもたちが、こっちを見開いたり、あっちを見開いたり、そういう行ったり来たりをする作業の中で、注意が分散してしまうような気がします。だから、1冊の中でおさまり切れるのだったら、1冊の中に主題とか観点とかが入っていたほうが、子どもたちが集中できるのではないかというふうに思いました。

それから、廣済堂あかつきは、読み物主体で文章部分が多く、構成も割と平板というか単調なような感じがして、少し子どもたちの食いつきが弱いかなと思いました。

それからもう一つ思ったのは、お互いに話し合う中で、多様な意見を交換し、自分なりの考えを深めれば良いと思うのですが、この会社は、ノートの部分で個人の思考を重視していて、特にノートの最初の部分で、割と結論めいたことを提示して、空欄でそれに合わせるような答えを求めています。どちらかという、特定の価値観にこだわり過ぎているのかなという印象を受けました。

それから、学研みらいは、判が大きくて、私は見やすいと思いました。ここは先生方によっていろいろ評価が分かれると思いますけれども、私は判が大きくて見やすいと思いました。挿絵も多くて、結構引き込まれると思います。さらに、考える視点が提示されていますけれども、割とあっさりしている。逆に言えば、細かく踏み込んでいないので、子どもたちの間でいろいろな議論がしやすい編集になっているように思いました。ただ、漫画風の挿絵が多くて、親しみが持てる反面、絵のインパクトが多くて、子どもたちが漫画の絵のインパクトに引き込まれてしまい、考えを深める部分にやや入りづらいのかな、絵のおもしろさとか、絵の強烈さに注意が行き過ぎてしまうのかなと思いました。

中川委員長
教 育 長

それから、比較的字のサイズが大きい目で、結果的に行間が狭くなってしまって、やや読みにくいような感じを受けました。選定委員会の委員の意見にもあったのですが、1年生の教材の中に、少し不適切なものがあると感じました。

学研ですね。

学研教育みらいです。

それから、学校図書は、文章と挿絵のバランスがよくて、挿絵も比較的優しく、強いインパクトのものが少ないので、子どもたちがすんなり考え方に入り込める教科書になっているのかなと思いました。また、見開きのページの中で、文章は下だけ、絵は上だけというふうに、左右のページのつながりにも配慮していて、子どもたちが考えを継続して捉えられるように思いました。ただ、学校図書も2分冊になっているので、こっちの教科書を見たり、ノートを見たりして、行ったり来たりすると、考えが中断されてしまって、深まりがいまいちかなというふうに思いました。

それから、日本文教出版は、物語よりも状況、シチュエーションで考えさせる教材が比較的多いように思いました。ここは評価が分かれると思いますが、私はこういったシチュエーションに対応している教材はいいというふうに思います。

ただ一方で、この教科書も、2分冊になっていて、考えが途中で分断されてしまうか懸念があります。

また、中にはイラストのインパクトが強過ぎるものがあって、そこに子どもたちの注意が向き過ぎてしまうかなと思いました。

さらに、見開きページで、結構レイアウトに凝っているのですが、凝り過ぎてしまっていて、文章のつながりが分断されてしまい、子どもたちにとってはわかりにくい構成になっているところがあるように思いました。

それから、教育出版は、やはり物語よりも場面で考えさせる教材が多いことは評価できると思いました。ただ、学習の手引きのところで、指示が細か過ぎて、指導が誘導的、型にはまりがちになるような構成になっているのではないかという印象を受けたのと、学習の手引きというところでも、答えを誘導しているような部分があるので、そこもどうかというふうに思いました。

それから、推薦が3社あった教科書の中で、まず、光村図書ですが、私はこの表紙は優しくて好きです。元気が出て生き生きとしていて、この表紙の感じは非常に気に入りました。

あとは、全学年でいじめを教材として直接扱っているという選定委員会の指摘ももっともだと思い、その点もいいと思いました。

それから、文と絵のそれぞれの作者も明示されていて、絵も優しい感じで、全体的に穏やかでいい印象を受けました。ただし、教材によっては、1年生のものとか6年生のもので、若干字が小さいものもあって、少し見にくい印象を受けました。

一番気になったのは、主に場面展開よりも、ストーリー展開で考えさせる内容になっていて、考えようという視点でも、登場人物の心情を考えさせるような構成になっている。国語の教科書と類似しているという指摘がありましたけれども、今回の改定は、読む道徳から考える道徳、議論する道徳に変えようという意図のもとになされているので、ストーリー主体で、登場人物の心情を考えさせるような教材が少し多過ぎるという印象を受けました。

それから、東京書籍は、各学年で情報モラル、いじめに関した部分を教材として扱っているというところはよいと思いました。一方、場面展開で考えさせる教材もあるのですが、全体的にストーリー主体の構成になっていて、文章が多いような印象を受けました。例えば光文書院とかと比べると、従来型の読む道徳という教科書かなという印象を受けたのと、構成が割と穏やかで、その子どもたちの食いつき、興味を引く力が弱いように思いました。

光文書院は、サイズが大きくて見やすいということはいいと思いました。

それから、従来からのよく副読本などで取り上げられてきたストーリーで考えさせる教材よりも、編集委員会作という、いろいろなシチュエーションを編集委員会で作って提示している教材が多く、現実の課題を子どもたちに考えさせる、工夫された内容になっているなど思いました。また、千代田区の生活環境条例も取り上げられていて、ここはおもしろい視点だなと思いました。

一方、ほかの教科書にもあったのですが、若干絵のインパクトが強過ぎる教材も見られて、内容よりも絵のインパクトに引きつけられ過ぎてしまうという懸念を持ったのと、ページの下の吹き出し的なものは、なくてもいいのかなと思いました。それぞれ先生が指導の中で気がついた範囲で子どもたちに投げかけていけば、教科書の中であえてこういう細かい点まで取り上げる必要はないように思いました。

私なりの8社の感想はそんなところですよ。

中川委員長

先にそれを皆さんに聞いたほうがよかったですね。

そういう意味で、8社の教科書でお気づきになった点を教えていただけますか。

金丸委員

私は、そこまできちんと読んでいないので、そこまではわかりませんが。ただ、見た感じで、字の見やすさということは非常に大きいなとは思っていました。ですから、例えば今の3社であれば、どれもよくできているけれども、光村の字はちょっと小さいなというような感じです。だから、中身はどうかよりも、読みやすいほうが子どもたちはとっつきやすいだろうなというふうに思っています。半分ぐらいは、字が小さくて見にくく、半分は読みやすいなという感じを受けております。

正直言うと、私、教育出版は結構いいのではないかと考えていたのですが、実働している政治家の写真や何かが出たりして、どういう意図で入ったかはわかりませんが、それはさすがに道徳としては適切でないなという感じを受けました。

さらっとですが。

あかつきは、すっきりした紙面が私にはいいなと思っていたので、例えば目次がとてもすっきりしていました。このぐらいすっきりしていてもいいかなと感じました。

あと、目次の後に、道德の授業ってこうだとか、道德とはという各社記載があったのですが、イラストも少なく、すっきりしていましたし、私が持つイメージの道德の授業の説明がされていたかなというふうに思っています。

あと、ノートはちょっと分量が多いかなと思いました。

学校図書は、道德について書かれたところが私のイメージには一番ぴったりでした。ノートに関しては、私は余り不要かなと思ってはいるのですが、ノート自体は各物語について少し記述するところがあって、その次のページにテーマのくくりになっていたりして、構成はいいかなと思いました。あと、文字にたくさんルビが振られていて、読みやすいのか、それとも読みにくいのかちょっとよくわからないという感じでした。

光村図書は、やっぱり一番の印象は、字が小さくて読みづらいなという印象でした。あと、大体物語の終わりのところに、考えようとかつなげようとか、そういった言葉がどこの教科書にも入っていますが、シンプルですっきりしていたなと思っています。あと、つなげようのところがとても親しみやすい内容になっていて、やっぱりそういうところも国語の教科書に似ているのかなというふうに思いました。

あと、東京書籍はとても無難だなという印象です。適度にすっきりしているけれども、紙面の構成も読みやすいし、写真とかイラストの情報もちょうどいいかなというふうに、とても無難だなと思いました。

学研については、ちょっと教科書が大きいかなという印象で、文の終わりの、考えよう、つなげようの構成というか、つながりというか、流れがいいかなというふうに思いました。

日本文教出版については、私も紙面の字とかイラストとか写真とかの配置が、逆にちょっと、読みにくいなという印象がありました。表紙や題名にはインパクトがあっただけいいかなとも思いました。

教育出版に関しては、やはり物語の最後の学習の手引きの問いが多くて、そこまでそこに沿って授業を展開していかないといけないのかな、ちょっと多いかなというふうな印象です。

光文書院は、何しろ吹き出しの部分と文章の始めのところの問いと、進め方がわかりやすく、私が見ていた見方の真逆だったのですが、吹き出し等を見ていて嫌な印象がしなかったのも、これは調査委員会とか選定委員会の資料を見る前の印象ですけど、調査結果でどんな感想が、挙がってくるか、とても楽しみに、気になっていたところでした。

物語だけではない内容の構成もいいかなとは思いますが、ちょっと少しごちゃごちゃしている印象があります。

すみません、以上です。

私も、全体を見て感じたことをお話しさせていただきます。

廣済堂あかつきは表紙を含めて、全体に内容が薄いかな、という感じがしました。取り上げている人物も今の子どもたちに伝えたいなという人が少ないということを感じました。

学研は全体的に絵や取り上げ方が古いな、ということをちょっと感じました。例えば一年生ですけれども、「だいすき！わたしたちの町」では昭和時代のレトロな感じの町並みが出てきて、そこに、琴と三味線を売っているお店が出てきて、「私たちの国で古くから使われている楽器だよ、弾いてみたいな」と言わせていますが、道德の教科書でここまでする必要があるのだろうかと感じました。他にもそう思わせるものが、各学年にありました。取り上げている人物については、錦織圭や、強くなるために中国で練習することを選んだ卓球の石川佳純や高橋尚子、吉田沙保里、内村航平などが出ていました。その他に、今でも知ってほしい人では、ジョン万次郎や野口英世、宮沢賢治、西岡常一などが出てきて、仕事にはこんなものがあるということや、こういう苦労をしながら一流になったということがよくわかる人が出てきていいなと思いましたが、取り上げ方が、今の子どもにあっているかな、と思いました。

学校図書は、他の教科書会社でも取り上げているところがありますが、「星野君の二るい打」など、子どもたちにこれを考えさせるのはちょっと酷だな、という感じの読み物が出ているのは、もう少し考えたいな、と思いました。

教育出版は、誘導型の設定が多いことや、大切な国歌、というところでは、日の丸のページかというくらいにいろいろな日の丸の写真ばかりが出ているなど、全体的に、もう少し広い目で物を見てほしいなと感じました。

日本文教出版のほうは、見開き構成で、レイアウトに凝っていて、先ほどシチュエーションを多用しているという教育長のお話がありましたが、ただ、全体を通して、何を考えさせたいのか、ちょっとわからないものがありました。

光村図書については、答申書の中に、いじめ防止について全学年、コラムで取り上げている、という評価がありましたが、他の各社も、いじめについては、いろいろな形によって各学年で取り上げているので、光村で特に強調することではないのかなというふうに思いました。表紙は一貫して伸び伸びしていて、全体はシンプルだし、一つ一つの項が読みやすいなというふうに思いました。取り上げている人も、命ということを考えさせるには最適の、J T生命誌研究館館長の中村桂子さんの話が出てくるのは、いいのですが、全体的には少し弱いかなと感じました。

東京書籍は、これからどういうことを学ぶかということが、明確なテーマで示され、一年間を通した見通しがきくのがいいと思います。一つ一つの章も、考え方を誘導していないなと感じました。

命についての項目が各学年に出ているのですが、難病で亡くなった子が残

した手紙や、大空襲の様子、動物などについて取り上げており、日本だけでなく外国の子どもに目を向けた話もうまく入っていて、世界に目を広げられるのではないかというふうに思いました。同じように言うと、社会のために働く人、という項目などでも、世界に目を向けています。

また、法や決まり、権利と義務などについては、例えば、駅前広場は誰のもの、という形の問いかけがあるのいいと思いました。

いじめのことについては、各学年で取り上げていますが、これも学校を幸せにするのは誰だろうか、という問いかけ型になっています。

光文書院は、千代田区のポイ捨て禁止条例が取り上げられているのはいいのですが、他の部分で取り上げている内容が、千代田区の子どもに適切だろうかと思いました。例えば、一年生のまちたんけんというところでは、大貫漁港を取り上げているというように、全体的に地方の内容が多かったです。それから、盆踊りなど、日本の行事や和の食文化が必要以上に取り上げられていると感じられました。

あと、全体を通してですが、何社かの教科書には、『電池が切れるまで』という、がんと戦って亡くなった女の子の詩が出てきます。この詩について、「彼女の生きたいという願いは尊いものだが、命がないと人間は生きられないのに、世の中には、いらないからと言って命を無駄にする人がいる、という部分については、いじめにあって死にたいくらい苦しいと考えている子が、自責の念に苦しめられないかと心配だ」という新聞の投書がありました。取り扱う時には、そうしたことも考えなくてはいけないと思いました。

また、『星野君の二るい打』という話が載っている教科書がいくつかあります。野球の試合のときに、最終回で勝つか負けるかのとき、コーチはバッターボックスに立った星野君にバントをしろと命じたが、星野君はいい球が来たので打ってしまい、星野君のチームは勝ったけれど、後で、何でルールを守らなかった、とコーチが星野君に叱った、という話が出てきます。この話でルールを考えさせるのは酷ではないかと、道徳の授業で取り上げることに、疑問を感じました。

『電池が切れるまで』と『星野君の二るい打』は、選定候補の教科書には出てこないで、よかったな、というふうに思っています。

また、道徳教科書検定にあたり、和を重視するため洋菓子を和菓子に変えさせられた、という話がありましたが、東京書籍では、憧れのパティシエ、ということで、洋菓子作りで成功した人の話を載せていました。東京書籍ではほかにも、和にとらわれず、洋の世界で活躍している人も出ています。

というようなことを感じながら、教科書を見ていました。

金 丸 委 員

話がまたもとに戻って申しわけないですけども。指導課長や統括指導主事にお聞きしたいのですが、1つは、例えばどれも書いてあるのだと思いますけれども、道徳の学習が始まりますといって、こういうものがあるかと思っています。これは、授業のときには活用されるのですか。そうではなくて、授業をやるとすると、それぞれの単元のほうにすぐ飛んでしまって、こういう

	ところというものは活用されないのでしょうか。
統括指導主事	こちら、道徳に限らずですが、年度当初の教科の学習に入るときに、さあ、これからこの学習が始まりますといったような内容の、こんな学習を1年間やっていくよ、いわゆるオリエンテーションのような形の内容に触れてから入ることは非常に多いかなというふうに思っております。
金 丸 委 員	今、示したようなものというのは、非常に子どもたちにとっても役立っているというふうに理解していいのでしょうか。
統括指導主事	はい。今後1年間の学習に向けての動機づけ、意欲づけという部分、また見通しを持たせるという部分では、こういったページも必要なのかなというふうに考えております。
金 丸 委 員	もう1点だけ。ノートをつけているものがありますね。私みたいに古い人間にすれば、ノートというものは自分でつくるもので、初めからつくられていて、それに穴埋めするような形でのノートというものは、半分意味がないのではないかという気もします。今の子どもたちというものは、ノートをすることができないからこういうものがついているのでしょうか。そうではなくて、もっと重要な目的があってこういうものがついているのでしょうか。
統括指導主事	子どもたちができないからノートがついているという視点ではなく、その教科書会社が考える教材を、より効果的に価値的に学習する、また、まとめていく上でどうしたらいいのかという視点から考えて、それぞれ、恐らく今回で言うと、2社か3社ぐらいが別冊をつけていると思いますが、そういった判断等もされているかと思えます。 教員の側からすると、やはりこれも全て、1か10かわかるわけではなくて、やはりついていたほうがありがたいという教員もいれば、いや、やはりこれに、先ほど来いろいろなご意見をいただいておりますが、縛られる、また、逆にこれに書かれていることしかまとめとして記入できない、そういったデメリットもあるといった声も寄せられておりますし、選定委員会の中でもそういったご意見が出ました。古川委員からも分冊等についてお話がありましたが、やはりメリット、デメリット双方があるという意見が選定委員会でも出され、また、選定委員会のメンバーの中に、保護者代表の方も2名入っていただきました。その方々からは、この分冊、うちの子は2冊管理できるのだろうか、途中で1冊なくしてしまうことはないだろうかといったご意見も出されました。管理の部分、子ども目線で言うところの、そういった管理の部分でも心配されているようなご意見も寄せられましたことをつけ加えさせていただきます。
金 丸 委 員	先ほど教育長のおっしゃった、2つに分かれると、意識が分散してしまっていて、子どもたちの集中を途切らせてしまう危険性があるのではないかというご意見については、先生方はどういうふうにお考えになるのでしょうか。
統括指導主事	やはり授業の中で、常に教科書と分冊を開いて併用していく進め方なのか、また、本当にまとめの段階のみで使うのか、それは授業の展開の仕方、担任によると思いますが、あちらこちらに目線が動くというか、思考が行っ

	たり来たりということは子どもにとって余り好ましくないかもしれません。 それと、関連があるかどうか、もう1点、似たような話が選定委員会の中でございまして、この3社の中で、例えば2社はこのような形の記載、ページがあって、たまたま同じ教材ですけれども。もう1社は、何を言いたいかというと、1社は必ず偶数ページ始まりで、ほかの2社は、終わりが偶数ページで終わってしまい、奇数ページから始まると。それが、こちらをやっているのですが、別の教材に思考や視点が移ってしまうような心配もありますねといった意見もありました。 それも補足させていただきます。
金 丸 委 員	見開きのほうが、子どもたちが集中して勉強ができると、そういう意味ですか。
統括指導主事	恐らくそのご意見では、今取り組んでいる教材だけが自分たちに飛び込んでくるというか、それが、そこに集中できる。次の全く関係のない教材が入ってくると、また興味がそちらのほうに移ってしまうこともあるのではないかといった意見もありました。
中 川 委 員 長	その辺、先生方はどういうふうに考えていらっしゃいますか。
統括指導主事	そういったご意見、なるほど、そういった視点もあるのだなというところで、選定委員の方々、教員代表のほうは納得している様子が見られました。
中 川 委 員 長	古川委員。
古 川 委 員	教育委員の皆さんに伺いたいと思ったことがあります。教科書を見る観点の5の地域性への配慮で、光文書院が千代田区の生活環境条例を扱っている。このことというのは、どのくらいポイントが高いことだと感じですか。ポイントが、地域性への配慮がされていて、ポイントは高いとは思いますが、どのくらい重視というか、選定に当たっての重視する点になってくるのかなと。できれば、千代田区のことですし、それが教科書に載っていたらいいだろうと、千代田の子が学ぶ教科書に載っていたらいいだろうと思えますけど、どのくらいのポイントかなということです。
教 育 長	6年生のみの、それも35くらいある1学年の教材の中のほんの1つですから、全体からしてみれば、この位置づけというものはそんなに多くはないと思います。ただ、私は、6年生がこの話を見たときに、自分のまちの課題としてリアルに認識してくれて、これをもとに自分の生活を地域社会のあり方と結びつける形でいろいろな観点から考えてもらえれば、生きた教材として非常におもしろくていいのかなと、私は思いました。
金 丸 委 員	私も、ある意味で、やっぱり千代田区のことが出ていること自身は、子どもたちの関心との絡みでは非常にいいだろうと思うのですが、実は扱い方が難しいなと思っていて、例えばポイ捨て防止条例だったら、あれは、刑罰をつけることがどうなのかということから、いろいろな議論があるかと思えます。子どもたちにそういう議論が十分にできるのかなというようなことを考えると、なかなか難しいだろうというふうには思っています。
中 川 委 員 長	私は、道徳の教科書で取り上げなくてもいいのかなと思っていたので、余

	り重視はしていませんでした。
古 川 委 員	はい、ありがとうございます。
中川委員長	社会の教科書などでは、住んでいる地域が出ているほうが勉強しやすいとは思いますが。もちろん条例を誇りに思う人もいるだろうし、それをもとに考えればいいことですがけれども、教科書で重視しないでもいいのではないかなと私は思います。
古 川 委 員	ありがとうございます。
中川委員長	ほかには何か。
金 丸 委 員	よろしいですか。光文書院は読みやすいなと思っているのですが、唯一私のイメージとしては、下を書いてあるこのコメントというか、これが何か気になって、実はこれは要らないのではないかと考えていたりします。だけど、それが実際には先生方がそれを質問するのだとすれば、入っているのと、入っていないのと、そんなに大きな差がないのではないかという気もあります。先生方の目から見たら、私みたいな、こういうものが入っているのは余分ではないかというような疑問というのは余りないのでしょうか。
統括指導主事	メリット、デメリットは先ほどお話ししましたが、やはり幾つかのご意見の中には、吹き出しがなくてもいいかもしれないと。また、ここが横書きになっていることで、また少し目線が移ってしまうかなといった心配の声も上げられました。 ですが、全ての教科書がそうですが、冒頭に申し上げましたとおり、全ての国の検定を通っている教科書というところで、幅広くいろいろな角度から、先生方にこの8社を見ていただいて、先ほど来地域性といったところも出ましたが、それも加味されたとは思いますが、やはりそれ以外のところで、読みやすさ、中身、また授業の展開のしやすさ、子どもたちにとっての読みやすさ等と、さまざまな角度から見て、冒頭申し上げましたとおり、3社を推薦させていただいたというところでもあります。
指 導 課 長	今の点で少し補足させていただきますと、先ほどの分冊とかワークノートみたいなものがあるということは、どの教科でもよく一般的に言われていることなのですが、若い先生が、なかなか題材の狙いとかポイントがわからないときには、考え方の視点をうまく順序立てて展開できるガイド資料があると、よい指導ができると思います。ベテランの先生なら自分なりの価値観を持って展開できるので必要ないとおもいますが、特に若い先生方には、分冊で流れをある程度ガイダンスしてくれるものがあるとよいと思います。
金 丸 委 員	私みたいに、ズルいことばかりしてきた人間から見ると、気にはなりますね。小学校のときも、先生用のテキストブック、教科書の厚いやつがありますね。ああいうものを持ってきて、先生の求めているものはこれだなということで、解答を書いたことがあるものですからね。ある意味で、本当に意味のない誘導がそこで生じてしまうだろうなという心配をしています。
指 導 課 長	金丸委員がおっしゃるように、これとは別に、必ずどの教科書も、先ほど教育長がお話しされたように、指導書というものがつきます。原文に赤字で

中川委員長
金丸委員

いろいろ書かれていて、例えばこういったところではこういう発問をするといいよとかありますので、そのまま子どもにその通りに発問してしまうと、誘導されてしまうという状況はあるかもしれません。

金丸委員が小学生だったら、道徳の授業はどうなってしまうのでしょうか。

でも、あのころ道徳はあったような気もするのですが。教科書があったかどうかは記憶にないですけど、道徳はあったような気がして。私のことを教えてくれた先生は、日教組の闘士でしたから、そういうものには全然影響されなかったの、私も影響されなかったのですが。

ただ、明らかに私の経験では、手引書に書いてあることと自分の素直に考えることということはかなり乖離していて、手引書に基づいて答案を書けばいい点が取れるということだけを知って行動していたという記憶があるものですから、そのことにつけても、道徳の授業のときに、なるべく誘導がない形のほうがいろいろな意見が出るのではないかというふうに思っている次第です。

指導課長

一方で、例えばこれを家に持って帰って、もう一回見直したりするときには、こういった発問があれば、先生なしで読み解くことができますし、不登校のお子さんとか、そういったお子さんが家に持っていて、これを読み物として読んでいても、下にこのことについてどう考えるのかなということで、自習と言いますか、ひとり学習にはあったほうが良いというメリットもあるかと思います。

中川委員長

例えばそういう不登校のお子さんが読んでも、元気になるような話がいっぱい出ていたほうが良いわけですね。

どうでしょうか。大体出そろいましたか。

それでは、一応これで1社に絞るわけですね。

金丸委員

というよりも、その前に、この3社に絞って議論していいかどうか第一ではないでしょうか。

中川委員長

それはもう、一応3社に絞ったことは絞ってあるわけですね。

金丸委員

いえ、それは答申で出てきたものはそうになっていますけれども、教育委員会としてそれがどうかというところがあるのではないのでしょうか。

中川委員長

これでいいかどうかということですか。慣例に従ってやってきましたけど、どういうふうに選びましょう。それをまず決めたほうが良いですかね。

金丸委員

そうですね。3社に絞ることは既定のルートだということで、もうそこに入っても私は構わないとは思いますが、手続的には、答申が回ってきたその答申に従って3社に絞り込むかどうかというところが1つあって。それはそれでいいのではないかという結論になったときに、この3社の中からどれかという、そういう流れのほうが、議論の流れとしては素直かなというふうに、すみません、もう本当に形式主義ですから。

中川委員長
教育長

そうですね。今までは、上位の3社の中から選んできたわけですね。

3社出されてきていますが、私なりに、3社を選んだ同じような視点で8社を比べると、学校図書は3社並みに、それほどマイナスのところがなく

中川委員長
教 育 長
中川委員長
教 育 長

て、ほどほどいいレベルの教科書かなというふうに個人的には思いました。

学校図書ですね。

はい、学校図書。

では、幾つかの中から選ぶということにしますか。候補を出しますか。

その4社は、それぞれレベルは大体同じで、どの教科書を選んでも、それなりにいい教科書だとは思いますが。あとは、それぞれ、教育委員がその中でもどこを重んじるかというところで、若干の違いが出るというふうに思いますが。どうでしょう。

金 丸 委 員

それなりのレベルを保っているという意味では、国の検定を受けているわけですから、一定のレベルは確保しているのだと思いますね。その中でも我々としてももう少し絞り込むとしたら、どのくらいかという、今のお話だと、教育長が学校図書も入れて、4点の中から選ぶことが適当ではないかというお考えですよ。

教 育 長

はい。

中川委員長

いかがですか。

古 川 委 員

私も、上の3社を抜かした教科書で言うと、学校図書と学研もまあまあかなと思っていました。ただ、私は3社から選んでいいかなと思っています。

中川委員長

いかがですか。

金 丸 委 員

私も、そういう意味では、それほど大きな差はないと考えていますから、そういう意味では、先生方が扱いやすい教科書と判断されたところの中から選ぶことは一番穏当かなというふうには思っています。

中川委員長

そうですね。では、一応答申で出てきた3社の中からということにさせていただきますが、よろしいですか。

(了 承)

中川委員長

では、1番の光文書院から行きますか。

もう一回その3社について、それぞれの委員の判断を述べましょうか。少し時間を置きますか。10分ぐらい休憩します。

(休 憩)

中川委員長

それでは再開いたします。各委員の皆さんにどこがいいか言っていただきましょうか。

古 川 委 員

私は光文書院が良いと思います。

金 丸 委 員

私も、光文書院がすごくいいと思うのですが、1つは本の大きさ、それでもう一つは、ページの下に書いてあるコメントがちょっと余分だなという感じがして、そのことを差し引くと、東京書籍になるのではないかと考えております。

中川委員長

私は、やっぱり内容の面から、東京書籍がいいかなと思います。

教 育 長

私は、ページの下での指示のところは気になりますけれども、先ほどから何回もお話ししているように、ストーリー展開よりも、場面を提示して考えさせるような教材がたくさん取り上げられているということと、千代田区に身近な教材が取り上げられているということを評価して、私は光文書院がいい

	と思います。
金 丸 委 員	すみません。質問があります。私は、先ほども言ったように、光文書院がいいと思ったのですが、マイナス点として、本の大きさと、それから下のコメントがどんなものだろうかということで、東京書籍かなというふうに考えているわけですが、本の大きさが、子どもたちにとって全く負担にならないとか、もしくはコメントが何らかの重要な要素を持っているということであれば、元に戻って光文書院を推すということもあり得るので、その2点について、もう一度説明していただけますでしょうか。
統括指導主事	教科書の大きさについてですが、選定委員会の中で、これが大きくて特段授業に支障が出るということよりも、本当にこの大きさと、あと、レイアウトも含めて、また色使い等も含めて、また文字の大きさ等も非常に見やすいと、読みやすいというメリット、そういったよさを非常に多くの意見としていただきました。また、吹き出しについても、全て授業の中で取り上げる必要はなく、また必要に応じて指導者の意図で取り上げることは当然できますし、また、教科書を自宅に持ち帰ったときに、保護者とこれを読み合ったときに、保護者が子どもに問いかける、逆に1つのヒントにもなってくるのかなというふうにも考えますので、特にこの吹き出しについては大丈夫かというふうに考えております。
中川委員長	ありがとうございます。
	金丸委員。
金 丸 委 員	もしその2点が、特に大きな問題がないとすると、私の評価は、先ほども言いましたように、光文書院のほうが少ないかなというふうに思っておりますので、先ほどの意見を撤回して、光文書院を推させていただきます。
中川委員長	ほかにはいかがでしょうか。もう議論は出尽くしたでしょうか。
	(な し)
中川委員長	では、ここで、来年度の使用教科書につきまして、採決をとりたいと思います。
	光文書院がいいと思う方、挙手をお願いします。
	(賛成者挙手)
中川委員長	3名ですね。
	私は東京書籍を推薦させていただきます。
	それでは、これを受けまして、3対1ということで特別の教科道德の教科用図書については、光文書院の『小学道德 ゆたかな心』を教育委員会として採択の候補といたします。
	この件に関しは、改めて議案として提出し、決定することといたします。よろしいでしょうか。
	(了 承)
中川委員長	それでは、以上で本日の日程は全て終了しました。本日の臨時会を閉会いたします。お疲れさまでした。